モラルエッセイコンテスト表彰式

平成３０年１月５日（金）県文化センターにおいてモラルエッセイコンテストの表彰式が行われました。

高校の部で、本校普通科２年の常松桜さんが最優秀賞、遠藤未来さんが優秀賞を受賞しました。最優秀の常松さんは、中学生の部、一般の部の最優秀賞受賞者と共に作品を朗読し、多くの出席者の涙を誘いました。他に算数・数学ジュニアオリンピック、科学の甲子園、子ども作文コンクール、野口英世賞、浅川寛一賞の表彰や作品発表があり、小・中高校生の若い力を頼もしく感じました。

では次の常松さんと遠藤さんの作品を味わってください。

平成二十九年度モラルエッセイコンテスト
最優秀賞
「命の理由（わけ）」
福島県立視覚支援学校高等部普通科
二年　常松　桜

私は時々、どうして生まれてきたのか、命の理由を考えることがあります。これを考えている時は、大抵何かで悩んでいる時です。悩むたびに考えますが、わからなくなって、考えることをやめてしまいます。考えてはやめ、考えてはやめ、を繰り返してずっと過ごしてきました。

ある日、「いのちの理由（わけ）」という曲名に目が留まりました。まさに私が知りたかったことでした。歌っていたのはクリス・ハートでした。彼の歌声は、技術的にきれいなだけでなく、どこか温かい気持ちになれる歌声だと思いました。そして、曲を聴き終わったあとは、ほんとにあたたかい、やさしい気持ちになりました。

『私が生まれてきた理由（わけ）は　父と　母とに出会うため　私が生まれてきた理由　は　兄弟たちに出会うため　私が生まれて　きた理由は　友達みんなに出会うため…』

これを聴いた時、私は、「なんだあ、こんなに簡単なことだったんだ。」と素直に思いました。どうして生きているのか、どうして生まれてきたのか、これについて思うことは、人それぞれ違う考えだと思います。

私は白皮症で、見えにくさよりも外見で悩んできました。いわゆるアルビノで、髪の毛、肌、まつ毛、眉毛も真っ白です。小さい頃からジロジロ見られ、外国人かと聞かれるので、小学６年生に上がるとき、黒く髪を染めました。なぜあのとき染めてしまったかと最近後悔しています。「自分を隠さなくてもよいのではないか、自分を否定してきたことになるのでは」と考えるようになりました。

私が生まれてきた理由、それは、たくさんの人と出会って、たくさんのことを経験するため。その中には、辛いことや苦しいこと、うれしいことや楽しいことがあって、そこからたくさんのことを得て、しあわせになるために、生まれてきたのだと思います。

優秀賞
「病気が気づかせてくれる絆」
福島県立視覚支援学校高等部普通科
二年　遠藤未来

私の家族は誰かの病気が治ったら、二、三年で別な誰かが病気になるという繰り返しでした。私は生まれてすぐに、網膜芽細胞腫になり、三歳の時に横紋筋肉腫になりました。ただどちらの病気も懸命な治療と、家族の支えで完治しました。

私が小学一年生の時に全盲の父が悪性リンパ腫になりましたが、発見が早く初期だったのでこれもまた完治しました。

三歳のころの病気から十年もたった私の右足のかかとに腫瘍ができました。かなり強い抗がん剤を使ったため、髪の毛は一回目の治療で全て抜け、貧血もひどく輸血を何度も繰り返し、白血球も下がりました。生ものや作ってから時間がたったものは、一切食べられませんでした。そんな中でも父や母は私の前では、決して泣いたり、弱音を吐いたりせずに、病気になる前と何も変わらない日々を送らせてくれました。そして両親は私のために毎日のご飯を一から考えてくれて、母も父も私と同じものを食べてくれました。みんなの支えがあり無事手術もして、私の病気は完治しました。

病気になるまでの私は、反抗的な態度ばかりで、母に「中学生なのにこんなこともできないの？ちゃんとやりなさい。」と言われる度に（もう、うるさい！いつも私のためって言うけど、ただのやつあたりでしょ？）と思い素直に聞かず、愛情など感じられませんでした。でも、私が重い病気になり、いつも私を励まし、支えてくれたのは、父と母でした。「お前は泣いていいから、不安になってあたってもいい、でも絶対、今、この病気から逃げるなよ。」という父の言葉は忘れません。全ての病気が治るわけではなく、失われていく命も少なくはないと思います。だからこそ、伝えたいです。「どんな病気にも家族みんなで闘って下さい。病気が気づかせてくれる絆もたくさんあります。それがきっと信じられない奇跡を起こします。」と。